

JSA 若手 夏の学校 2015 in 福島

-2nd Circular-

「原発事故後の福島を直視し、 科学者の役割を考えよう」

日時： 2015 年 9 月 11 日（金）～14 日（月）

参加費： 20,000 円程度

主催：日本科学者会議(JSA)若手「夏の学校」2015 実行委員会

お問い合わせ： jsa.summer.school2015 (アット) gmail.com

ホームページ： <http://www.jsa.gr.jp/05event/natu-index.html>

●企画の概要

今年も毎年恒例の「JSA 若手 夏の学校」を行います。夏の学校とは、全国の院生・若手研究者を対象に、特定の社会問題に関する実地見聞を行い、様々な専門家との議論を通じて問題を科学的に捉え、科学者の役割を改めて考え直すことを目的とする企画です。今回の夏の学校では、「原発事故後のフクシマを直視し、科学者の役割を考えよう」をテーマとしました。

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故は、未だかつてない甚大な被害を日本社会にもたらしました。原発事故からすでに 4 年が経過していますが、福島では放射能汚染の脅威は今も残り続けており、人々の生活に深刻な影響を及ぼしています。現在も 11 万 5000 人の人々が福島県の内外に避難しています。また、放射能と向かいながら、現地で復興活動を行っている人もいます。私たちは、そのような福島の人々の現状を何も知りません。現地の人々の生の声を聞き、現地の様子を五感で捉えることが重要です。

福島の問題は極めて複合的な性格を持つ、根の深い問題です。歴史的に見れば「原子力ムラ」と呼ばれる利権集団が原発に依存した日本社会の在り方を形作ってきました。現在でも原発事故の責任を負う東電は被災者の立場に立った賠償を行わず、政府も原発の再稼働を推進する姿勢をとりつづけています。さらに、原発労働の問題、コミュニティの破壊と再建の問題、ストレスや不安に苦しむ人々のケアの問題、放射能汚染の人体への影響の問題など、自然科学・人文科学・社会科学にまたがる様々な問題が福島の原発事故に関係しています。

学際的な研究を重んじる JSA という学術団体だからこそ、様々な角度から福島の問題を直視することができます。ぜひ原発事故後の福島の問題を共に科学的に学び、科学者の役割を改めて考え直しましょう。



避難指示区域の概念図
(平成 26 年 10 月 1 日時点)

●開催日時及び集合場所

開催期間は 9 月 11 日～14 日となります。

行きは貸切バスで東京駅集合と福島駅集合のいずれかで南相馬市役所へ向かいます。

(東京駅組) : 9 月 11 日 09:20 東京駅集合・出発

(福島駅組) : 9 月 11 日 14:30 福島駅集合・出発

帰りは「新松葉旅館」(福島市・飯坂温泉駅最寄り)で自由解散となります。

●参加費

2 万円程度を予定しています。参加費には「宿泊代」、「食費」(ただし、2 食分の自費があります)、「懇親会費」が含まれます。集合場所までの交通費は自費になります。

●お問い合わせ先・参加申込



←左の QR コードまたは

https://drive.google.com/file/d/0B2yx76kL5rcsU1ZEM2NBSIJDa0k/view?usp=docslist_api より参加申込書をダウンロード

し記入の上、下記のメールアドレスまで送信ください。

参加申込締切は 8 月 22 日(土)です。

jsa.summer.school2015 (アット) gmail.com

●放射能による参加者への健康影響についての注意

夏の学校 2015 では、未だ放射線量の比較的高い地域*へ立ち入ります。放射能による人体への影響については、圧倒的に高い線量を被曝した場合を除いては、自然科学的に論拠のある説明をすることができておりません。そのため参加者への放射能による健康影響については、JSA および夏の学校 2015 実行委員会は何ら説明及び安全の保障を行う手段を持っておりません。参加者の方は、必ず各自の判断の元で参加をお申込ください。

※参考値として、福島市平均空間線量 $0.31 \mu\text{Sv/h}$ 、南相馬市平均空間線量 $0.19 \mu\text{Sv/h}$ 、福島市に 48 時間、南相馬市に 24 時間滞在し、屋外活動 10 時間、屋内・車内では一律 40%低減として、累積被曝量は約 $13 \mu\text{Sv}$ で、平常時の 11 日分程度、胸部 X 線検診の 1/4 程度となります。

●メインの企画

①南相馬市役所職員の方による現状報告(1 日目、会場：南相馬市役所)

原発事故、津波による甚大な被害を受けた南相馬市の市役所の職員の方から現状をご報告いただき、質疑応答を行います。報告していただく内容は、

- (1) フィールドワークで回る場所の震災以前の様子： 当時の写真や産業の状況など。
- (2) 事故当時の様子： 事故当時の写真・映像や市役所の経験談など。
- (3) 現在の様子： 除染状況・復興状況、市と国の対立など市役所の苦悩など。

を現在打診中です。

②南相馬市の現地見聞・フィールドワーク (2 日目)

フィールドワークでは、以下の地域を回り、現地の生の様子を見学します。

- ・南相馬市小高区大井： 復旧が進まない津波被災
- ・南相馬市塚原、村上： 津波被災地
- ・南相馬市井田川： 干拓地の津波、原発水害
- ・浪江町請戸（うけど）： 6.5km 先に第一原発を遠望、津波被災地とその請戸小学校
- ・浪江町市街地（浪江町権現堂）： いまだ取り残されているゴーストタウン
- ・浪江町吉沢牧場： 薬殺を免れた 300 頭の牛
- ・南相馬市小高区市街地： 憲法学者鈴木安蔵先生の生家

③広田次男弁護士による講演（2 日目、フィールドワークの後、会場：南相馬市役所）

広田次男弁護士は、「福島原発被害弁護団」の共同代表として、「訴訟手続などにより、東京電力株式会社及び国に対し、福島第一原発事故による被害の完全な賠償を、国に対し、原発事故被害に関する政策」を求めています。広田弁護士からお話を聞き、現地での要求運動の内容と現状を学びます。

④シンポジウム（3 日目、会場：チェンパ大町（福島駅近く））

シンポジウムの位置づけは、前日（2 日目）の実地見聞を受け、そのような現状の原因、背景、今後の展望を考えることです。

3 名のシンポジストからそれぞれ報告をいただきます。

（1）「汚染水問題の現状」（柴崎直明：福島大理工学類）

柴崎先生は水文地質学という分野の専門家で、水資源の研究をされています。福島第一原発の汚染水問題についても研究・報告されています。フィールドワークだけではわからない、汚染水の問題をここで学びます。

（2）「原発事故被災者の住民の現状」（塩谷弘康：福島大行政政策学類）

塩谷先生は法社会学の専門家で、福島現地の方々と直接交流・活動されています。「私たち（…）は、地域と共に学び歩むことを基本理念としてきました。（…）フィールドワークなどで、住民の方々に直接会ってお話を伺うということには馴染みがあります。（…）そうした、大学ならではのできることを活かして、力になりたいという想いがありました。」この活動は、岩波新書『食と農でつなぐー福島から』に結実しています。このような経験のお話から、現地住民の現状や取り組みについて学びます。

（3）「原発事故被災地域の再建の課題」（菅野偉男：「原発なくせ、完全賠償させる福島県北の会」代表）

「原発なくせ、完全賠償させる福島県北の会」は福島県の福島市、伊達市および伊達郡の住民でつくる会であり、東京電力福島第一原発事故による損害賠償の個人請求書を集団提出しています。このような取り組みの中で、現地の要求運動とその課題についてお話していただきます。

⑤JSA 活動交流会

全国から若手・院生が集まる貴重な機会なので、全国各地域での JSA の取り組みについて交流します。終了後は、夏の学校 2015 全体の感想交流会を行います。

●スケジュール（仮）

時間	行動
1 日目	
9:20	東京駅集合
10:00	東京駅出発
13:00	福島駅集合

13:30	福島駅出発
15:30	南相馬市役所に到着
16:00-	南相馬市役所の方からの現状報告
18:00	
18:00	市役所から懇親会会場へ移動
18:30-	開会式・夕食交流会
20:00	
20:00	宿舎へ移動
23:00	就寝
2日目	
6:30	起床
7:00	朝食
8:30-	南相馬市の実地見聞（フィールドワーク）
13:45	
14:00-	広田次男弁護士の講演会
16:00	
16:10-	南相馬市から「新松葉旅館」（福島市）へ移動
18:30	
19:00	夕食
23:00	就寝
3日目	
7:00	起床
7:30	朝食
11:00-	シンポジウム（「チェンバ大町」福島駅近く）
17:30	①柴崎直明氏、②塩谷弘康氏、③菅野偉男氏による講演
18:00	懇親会
23:00	就寝
4日目	
7:15	起床
7:45	朝食
9:00-	活動交流会・感想交流会、閉校式、解散

●日本科学者会議（JSA）とは…

日本科学者会議（JSA）は、自然・社会・人文の枠を越えてさまざまな科学者が集う、学際的な学会です。科学を人々の幸福に役立てるために、科学者が自覚と責任をもち、協力し合うことを目的として、1965年に創立されました。大学や研究機関、民間企業の研究者、技術者、教師、弁護士など科学に携わる広範な人々が参加しています。院生・若手研究者は、全国規模の交流合宿「夏の学校」、研究報告会、若手研究者の権利についてのシンポジウムなど、自分たちの関心や悩みに基づいて活動しています。※JSAは新しい会員を随時募集しています。